

稲山会オンライン通信④

2021 年 10 月 1 日配信

発行人：行方正幸 発行所：稲門山の会事務局 TEL 03-3367-3723 FAX 03-3367-8150 ©稲門山の会1998



南チロルガイズラー山群：B. デートリッヒ氏撮影



ドイツアルプス：行方正幸 OB 撮影

1. お知らせ

(1) 百名山だよ全員集合 (2021. 08. 01 笠原 豊 OB (S40 卒) メール)

日本百名山登了の皆さま、Cc：廣瀬様、幹事各位（ご参考）

稲山会内の日本百名山登了者で集まろうと廣瀬さんの発起により以下添付にて提案します。

百名山登了者として当方に認識漏れや誤りが判ればご指摘ください。

また、百名山終了接近中または指向中の方の情報をお知らせください。

ご意見等は廣瀬さん宛 (hirosechisho@vaga.ocn.ne.jp) に送るとともに笠原 (kasaani2601@gmail.com) へも同報願います。

(2) グレート・トラバース (2021. 09. 05 笠原 豊 OB (S40 卒) メール)

稲山会の笠原です。

BSTVの番組が良かったので、余計なことかもしれませんがご紹介します。

前に、帯広の友人からの予告を受けていたのですが、その時には、皆さんへ知らせることは【余計なお世話】になるかもと遠慮して、辞めましたが、日高山脈の4月の縦走動画を視聴し素晴らしいと感じ、更に続くので、皆さんへ紹介したくなった次第です。

1. 放映済 (BS3 9月4日 18:00～19:30)

田中陽希の「グレートトラバース 3」シリーズの「最難関日高山脈大縦走」でした。

概要（視聴記憶）

富良野岳→芦別岳→夕張岳をスキーで縦走する前段がありました。

日高山脈縦走は、幌尻岳→カムイエクウチカ

ウシ岳→ルベツネ山→ペテガリ岳→神威岳を含むもので、14日分の食料と冬山装備からなる42kgの荷を背負っての積雪期（2021年4月）の距離140kmの大縦走でした。



イグルー建設に4時間を要したり、悪天候停滞、最後部のアクシデント（ハイ松にアイゼンが引っかかって5m転落→ハイ松に引っかかって停止）があり、両側切れ落ちた日高山脈らしいナイフリッジの登降などスリリングでした。

2. 次回

「知床半島から大雪山系縦走」次の放映予定
(NHK-HP から抜粋引用)

第34集は10月2日(土)

第35集は11月6日(土)

を予定しておりますが、変更の可能性もございますので、ご了承ください。

※時間およびタイトルは未定



3. 感想

ナイフ状の痩せた稜線が続くタフで不安定な地形と積雪に改めて厳しさを感じました。同行カメラマンがドローンも使い厳しい中で行動する精神力・体力技術力及び経験の高度さに感心しました。在学時、高橋さんから「5月連休に宮野OBとペテガリ岳へ行ってくる」と聞いて、なんと遙かな山へ行くのだろう、日数がかかるだろう。と驚いたことがありました。

ペテガリ岳は冬季初登頂を狙って戦後間もない1947年に早大山岳部が遠征し、30日掛けた苦難の末に登った東尾根が「早大尾根」呼ばれているが、当時の困難さを想い、今回の田中陽希の鮮やかな動画を視聴して、装備・食料や気象・通信などを含む登山技術の総合的進歩によって行動性や安全性が進んだと認識するとともに、山の不安全リスクは変わらないと思いました。

(追伸)

私も、入社25年目に出来た長期休暇制度を使って、4月の幌尻岳を目指して、二岐沢から入ったが、額平岳1808mの肩で吹雪2日停滞した3日目出発時も回復せず撤退したことがあった。新得町を拠点として近くの山に登っていたが日高山脈を諦めきれず、その後、目標をエサオマントツタベツ岳1902mに替えて登頂することが出来た。今回の動画でも同岳がチラッと映ったようだ。

(参考) 田中陽希氏についてウィキペディアから来歴を抜粋引用

2014年、208日11時間かけて日本列島に点在する日本百名山を南から北へ徒歩と海峡区間はカヤックだけで全行程7,800kmを人力踏破する「グレートトラバース 日本百名山ひと筆書き」を達成

2015年、221日と11時間かけて日本二百名山に選定されている残りの100座を北から南へ同様に8,000km踏破する「グレートトラバース2 日本二百名山ひと筆書き」を達成。

2018年からは、すでに踏破した百名山・二百名山に加え、日本三百名山に選定されている全301座を一度に南から北へ踏破する「グレートトラバース3 日本三百名山ひと筆書き」に挑戦し、2021年8月に達成した。

いずれの挑戦もアルパインクライマーの平出和也やTeam EAST WINDの先輩アドベンチャーレーサーの駒井研二らを同行カメラマンとし、この挑戦の様子はNHKのBS放送と地上波放送で放映されている。

(別件：余談)

さっき、パラリンピックが閉会しました。早大環境資源工学科(私の在学時は「資源工学科」)の同窓会に出席していますが、2019年の同窓会の時の講演で聴いた要旨は次の通りでした。

オリパラのメダル材料を都市鉱山から調達するとのアイデアを提案(下記参考)し、実践し、オリパラメダル用地金の殆どを調達することに環境資源工学科が関与したそうです。

(参考)

都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

東京 2020 オリンピックのメダルは、不要になった携帯電話、パソコン、携帯ゲーム機などを日本全国から回収して、金属を製錬して作るという世界初の試みの元に作られました。

2017 年 4 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日の期間に実践されたこの都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクトによって、金が約 32kg、銀が約 3,500kg、銅が約 2,200kg、生み出されました。元となった廃品小型家電の回収量は全国自治体分で約 78,990 トン、NTT ドコモ回収分が約 870 トンの合計 79,860 トンというとても多い量です。少し残念なことに、これらの廃棄品からメダルになるまでの総費用が明らかにされていません。

総費用を公開した方が、他国での取り組みやすさや、私達のリサイクル意識をもっと高められたのではないかと思います。

とはいえ、個人がオリンピックの準備に気軽に参加できて、日本の資源リサイクル技術をオリンピックを通して世界に紹介するという試みは、世界の方々のみならず私達自身もリサイクルの大切さを実感できる素晴らしい企画ですね。

抜粋引用元：[オリンピック金メダルの素材は銀。理由を知ればもっと五輪が楽しみに！ @ ジュエリー優／横浜指輪工房 \(jewelry-you.jp\)](https://www.jewelry-you.jp/)

(3) 北アルプスで地震。落石・砂煙で槍ヶ岳遭難・ヘリ 4 人救助

021/09/21 07:17 (読売新聞より)

北アルプス槍ヶ岳（3180メートル）の山頂に続く、長野県大町市の北鎌尾根で19日夕に落石があり、登山者7人が遭難した。一夜明けた20日、3人は自力で下山したが、4人は長野県警ヘリに救助され、うち1人が重傷。19日午後5時20分頃に起きた岐阜県飛騨地方を震源とする地震の影響とみられ、北アでは他にも落石や砂煙が確認された。気象庁は注意を呼びかけている。

北アルプス・涸沢（松本市）でも、異変が見られた。岐阜県安八町から来た会社員の男性（51）によると、

「ゴォー」という地鳴りのような音がし、岩が煙を上げながら斜面を転がっていた。

この男性は友人とテントを張り、宿泊する予定だった。地震が起きたため、山小屋の近くへ移動し、寝袋で夜を明かした。「上高地は何度も来ているが、地震に遭うのは初めて。夜も怖くて、寝られなかった」と振り返った。

涸沢の山小屋「涸沢ヒュッテ」（約2300メートル）の山口浩一さん（43）によると、19日夕に建物全体を突き上げるような衝撃を受け、10秒ほど揺れが続いた。「落石の危険が高まっている」と、登山者に注意喚起したという。北アルプス各地に山小屋を構える「槍ヶ岳山荘グループ」の穂刈大輔社長（35）は「紅葉シーズンで人出が多い時期。早く地震が収まってほしい」と嘆いた。

気象庁によると、飛騨地方を震源とする震度1以上の地震はその後、20日午後4時までに13回発生している。同庁は「山岳地帯では、引き続き土砂崩れや落石に注意が必要だ」としている。



登山道状況(北穂高小屋より)

槍ヶ岳・穂高岳方面に入山する人は岳沢小屋、穂高岳山荘、涸沢ヒュッテ、北穂高小屋、槍ヶ岳山荘に問い合わせ下さい

9月19日に起きた地震による、周辺登山道への被害はありません。（9月20日時点の情報です）

涸沢～北穂高岳（南稜ルート）、北穂高岳～涸沢岳（奥穂方面）、北穂高岳～南岳（大キレット）のいずれのルートも通常どおり通行できます。なお、槍ヶ岳東鎌尾根の登山道は一部崩落して通行できません。

不安定な浮石などの除去作業を行いました。今後余震なども考えられますので、落石や浮石など、これまで以上に細心の注意を払って下さい。

2. 金子治雄 OB 我が国の登山史をつくった「岳人列伝」を連載

— 60年代まで、著作を中心に—

金子治雄 (S41 卒)

西欧近代登山活動の影響を受けて、我が国でも明治末から大正初期にかけて、近代登山が勃興し、様々な岳人たちの活動が開始されて約120年が経ちましたが、近代のあらゆる歴史は、猛スピードで眼の前を駆け抜けて行きます。私が登山を始めた60年前と比較しても、装備は軽量化され重量は3分の1になり、登山情報はTVに溢れ、アプローチは大幅に短縮化されて登山行動は大きく変わりました。



先日、新聞等で、全国の書店数が20年間で半減したとの衝撃的な報道がありました。60年前では、登山と書物は切っても切れない関係にあり、書店や古書店の書棚には、山の本が一大ジャンルとして幅を利かせ、当時は山に行くと同時に、先人たちの著作を紐解き、まだ見ぬ山への憧れを掻き立てていた時代でした。しかし山の本は、書店の半減よりずっと前に、ガイドブック以外は店頭から姿を消し、それに連れて、かつて私たちを精神的にリードし登山史を刻んだ岳人たちの名は、消え去り、私の住む浦和の図書館の山の蔵書も、街の本屋さんと同じになりました。

現代社会は、新しい情報を次々とファイルに上書きしないと、情報を処理することはできません。このためあらゆるジャンルで古い本が消えて行くのは宿命です。しかし私たちは山の先人たちの著作から、山の美学、山の楽しさ、深さ、探求心、冒険心など多くのものを学びました。我が国の登山史を彩り消え去った岳人たちを、今回、稲山会通信誌上で、著作を中心に列伝というコラム形式で振り返る機会を頂きました。列伝に登場する岳人は、パイオニアワークが終焉した60年代までの期間で、全くの私見で選択しました。異論もあるかと想いますが、全20回の長丁場で連載いたしますので、よろしくお願いいたします。

1 回目 アーネスト・サトウ 主な著作、東洋文庫、日本旅行日記1, 2

通常、我が国の登山史に最初に登場する岳人は、ウォルター・ウェストンで、アーネスト・サトウを最初に挙げることは皆無です。アーネスト・サトウは、「一外交官の見た明治維新上下」を表し、司馬遼の幕末歴史本にしばしば登場し、外交官として知られていますが、登山家としては無名です。サトウが我が国の山の先駆者と知ったのは、東洋文庫の日本旅行日記を読んだ時からでした。この著作は、サトウが出版したものでなく、訳者の住田元男氏が、サトウの日記から日本国内旅行にかかわる部分を抽出して1992年にまとめたものですが、この日本旅行記1は登山記と言ってもおかしくはありません。



サトウはラフカディオ・ハーンと共に、幕末から明治にかけて来日した外国人の中でも単なる懐古趣味でなく、日本人以上に日本文化を愛し、学び、共感した英国人でした。世界に先駆けて産業革命を経験し産業社会に突入した英国人の彼らは、近代化の名の基に我が国の美しい社会や文化が音もなく崩れて行く様を、近代人の眼で哀惜を持って眺めていました。

サトウはロンドン・ユニバーシティ・カレッジ（現ロンドン大学）の学生の時、日本に憧れ外務省の通訳生として試験に合格し、北京で短期間勤務の後、生麦事件の前年、横浜に上陸し、一時帰国を挟んで明治中期まで25年も外交官として滞在し、最終的には日本公使を務めました。彼はその人柄で西郷、大久保、木戸などの志士や大名、幕閣の高官とも交流を持ち、英国大使館とのパイプ役を果たしてきました。

サトウは慶応3年に2代目英国公使パークスと富士山に登頂し、明治維新が落ち着いた明治5年から15年の間に、精力的に日本各地を旅行し登山を行いました。

ウェストンは明治25年に槍ヶ岳に初めて登りましたが、サトウの友人のお雇い英国人たち、たとえば、大阪造幣寮の招きで来日した冶金技師で考古学者のウィリアム・ガウランドは、ウェストンより10年も早く槍ヶ岳に登り、飛騨山脈を日本アルプスと命名したのです。更に海軍兵学寮のチェンバレン、開成学校の化学教授アトキンソンや工部大学校教授ディクソン、工部大学校の地震学教授ミルンなどのお雇い英国人たちも精力的に登りました。

お雇い外国人の中で英国人たちが、精力的に山に登った風潮について、以前稲山会通信の登山と薔薇で触れましたが、当時英国知識人の間に、産業効率化を優先する社会の未来に、自然と人間との原初的な関係を回復させようと芸術や建築の立場から警鐘を唱えたラスキンの存在がありました。この自然と人間との関係を取り戻す行為の象徴としてアルピニズムの勃興があったのです。

サトウも明治5年から10年間に、小仏、大山、大菩薩峠、浅間、草津白根、赤城、金精峠、男体山、富士山、針ノ木峠、ザラ峠、室堂、野麦峠、木曽、和田峠、志賀坂峠、八ヶ岳県界尾根、戸隠、飯綱、妙高、苗場、三国峠、御坂峠、柳沢峠、金峯山、木賊峠、権現岳、農鳥岳、間ノ岳、雁坂峠、など富士は3回登頂し、中部日本の主な峠は全て徒歩で越えました。ちなみに鉄道の開通は上野～高崎間は、明治17年、東海道線は明治22年、東北本線は明治24年、信越本線の軽井沢～直江津は明治21年、上越本線の上野～新潟は明治38年です。サトウたちは、ウェストンが活躍する30年も前に、徒歩で、人力車で、登山しながら日本各地を駆け回っていたのです。



3. 稲門山の会の会員 (OB, OG) の近況

(1) 宮野準治 OB (S35 卒)の登山報告【爺岳～鹿島槍ヶ岳 2021.08.04】

～85 歳北アルプス卒業登山(抜粋)～

宮野 準治 (S35 年卒)

- 日 程：2021 年 8 月 4 日～5 日(月)
- 山 域：柏原新道～種池小屋～爺岳～鹿島槍ヶ岳～種池小屋～柏原新道
- メンバー：宮野準治 85 歳、奥さま(神さん)



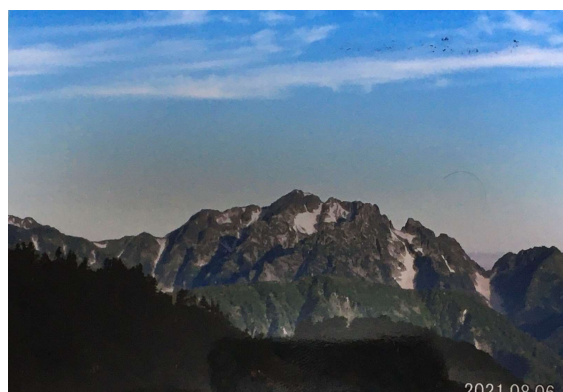
85 歳、いよいよ北アルプス卒業最終登山。選んだのは 7 月下旬に泊まり柏原新道を下る。ただ、コロナの緊急事態宣言下で行くかということと、7 月下旬の天候の悪さに悩む。それに今は、山小屋は事前予約は必要。天候は 8 月 4 日から少し持ち直すことを見極め、予約を変更する。

令和 3 年 8 月 5 日、柏原新道は出だしのモミジ坂と種池小屋直下の鉄砲坂はがきつい。

6 日、種池小屋から爺岳へのルートから見る劔岳はヒマラヤ、アンデスの山々に勝るとも劣らない雄姿を見せる。劔岳を見ると、納見先輩(S34 卒)、加納(S37 卒)、東(S37 卒)、中村(S38 年乗鞍で遭難)などザイルを組んだことが走馬灯のごとく頭を駆け巡る。

種池小屋から劔岳を望む

これが北アルプス卒業最終登山だと思うと一步一步かみしめるように登る(本当はしんどいから)。空は晴れているが、巻雲、飛行機雲が出てきて天候は悪化の兆候。鹿島槍に登り冷池小屋に、翌日柏原新道を下るときは雨になる。下りの鉄砲坂、モミジ坂は蛇紋岩で滑りやすい。昨年の経験から下山は登りと同じくらいに時間がかかることが分かっている。爺岳から鹿島槍を見て急に 4 年生の冬に荒澤奥壁北稜を早川(36 年卒/アルタールメンバー)、中村(前出)などと挑戦(結果は雪崩が多く途中敗退)したことを思い出し感傷的になる(頭を挙げて鹿島槍を望み頭を低れて山仲間を想う)。現実に戻り下山を決意する。残念。



ライチョウの親子

でも、下山途中で久しぶりに夏毛になったライチョウ親子(6 羽)に出会う。人見知りしない鳥、鹿島槍への諦めを慰めてくれる。

たった 1 年しか経ていないが、84 歳から 85 歳への 1 年は若いときに比べ 10 年位の体力減少とバランスの極端な悪化をもたらすことを痛感。9 時間の悪戦苦闘の末、扇沢の沢音聞く。

私の北アルプス登山はどうやら卒業できた(成績は中の下)

※ ～85 歳北アルプス卒業登山～の全文は「稲山通信第 44 号」に掲載いたします。

(2) 吉田稔 OB (S38 卒) の登山報告【大キレット～北穂高岳 2021. 08. 04】

吉田 稔 (S38 年卒)

天狗池から槍ヶ岳



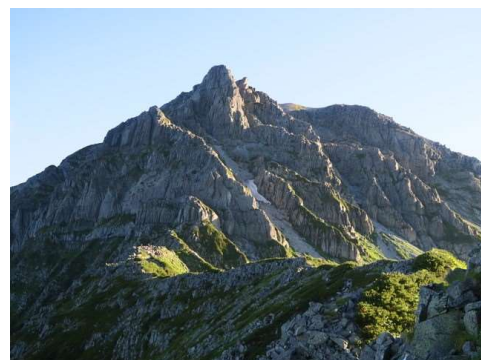
南岳から大キレット



南岳小屋から北穂高岳



長谷川ピーク



●日 程：2021 年 8 月 4 日（水）～9 日（月）

●山 域：槍ヶ岳～北穂高岳

●メンバー：立田好夫 62、奥野高英 64、上原康仁 38、杉林泉 59、吉田稔 81

8 月 4 日（水）

中野坂上 18：30—チロリアンへ。台風の接近が気になる

8 月 5 日（木）快晴

小淵沢 5：00—松本 6：00—上高地 7：50 島々駐車 ¥700@day
快晴の河童橋もコロナのせい出人出少ない。上高地 8：00—明神 8：50—徳沢 9：50—横尾 11：00—一の俣
出会 12：15—槍沢ロッジ 13：06

パスタ自炊昼食。3 時ころ杉林君合流 風呂に入れるとは何ともうれしい。

8 月 6 日（金）

槍沢ロッジ 1：30 起床 2：35 満天の星空の下梓川沿に進む
水俣乗越 3：40—槍沢・天狗原分岐 4：50 ようやく明るさを増す。
ここで槍ヶ岳を目指す奥野、上原、杉林と別れて立田と天狗池方面に向かう。

天狗池 6：00 槍ヶ岳展望絶景も池は残雪で槍の映像を映さず稜線までの急登を経て天狗原 9：15—南岳（3032.7m）60mほど下って南岳小屋 9：50 厳然と大キレットのルートが北穂の小屋まで一望。どうやら懸念された台風は遠く天気は心配ないようで、仕方なく進むとするか。

奥野、上原、杉林組は槍ヶ岳を経て南岳へ 12：20 到着、かなりバテている様子

8 月 7 日（土）快晴 風もなし

4：45 明るくなり山望もくっきりと現れる。

ハーネスをつけヘルメットをかぶりキレットに向かう。コースタイムでは 3 時間となっているがさてどれほどの時間で乗り切れるか、まず 1000m の緊張感に満ちた下降、長谷川ピーク手前最下部で小休止 6：05 今度は長谷川ピーク 2861m への急登、北穂小屋が頭上から威嚇する。

再度長谷川ピークを下り、眼前にそそり立つ北穂小屋への直登ルートに取りつく。

北穂小屋 9：30 来し方のルートをチラチラと振り返る自分にあきれる。生ビールの美味に思わず頬も心も体も緩む。12：50 頃溜沢への下りのがれ場で浮石に乗り転倒、右側頭部に裂傷、出血。幸い大事に至らず止血のガーゼとテープで応急処置をする。

みんなに荷物をたのんで涸沢に下山。診療所もないのでそのまま空身で下山を始める-15:20 横尾小屋 17:10 少し雨模様 釜のトンネルが8時に閉まることに立田が気が付き、上高地ならまだしも島々で車を取り釜のトンネルまで8時までに着くのは到底無理なので、杉林君が逗留している日本山岳会の山岳研究所に一宿をお願いします。3年前明神で山の会の高野が遭難した時、金子や新井と鏡平にいたので急遽上高地に下山して2日間捜索に当たった時世話になった研究所だ。ヘッドランプを頼りに明神橋を対岸に渡り 20:20 研究所。風呂に入りようやく人心地がつく。

前任の安井さんもおりその折のお礼を述べ、現管理人山田和人氏に挨拶。一泊2食¥6,500 ただし食事のおかずはなく飯とみそ汁のみ。ビールと食べ残しのもので補う。安井さんが飲み残しの大雪溪【長野】を差し入れてくれた。和室で布団とシーツ、枕とカバーのみ、持参のシュラフカバーが役にたつとは思わなかった。これもコロナ対策で我慢して下さい。

本日の行程はトータル 23km、38,000 歩、16 時間。テレビで日本と米国の野球決勝戦が観られた。

8月8日(日) 相変わらずの晴天には我々のつきを実感

午後からオリンピックのボランティアに向かう杉林氏を小淵沢でおろしチロリアンに向かう。そうめんとビールで納得しサウナで体を癒し昼寝。8時ころからようやく夕食の準備に入る、小生だけではなく、やはりみなさんお疲れでした。料理は焼き肉でシェフ上原にお任せ、小生持参の最後の一本 I. BALZINI, WHITE ラベル 2008 を堪能。

8月9日(月) 久しぶりの雨

帰路いつもの新府共撰場で桃を買い、いつもの中野新橋近くのチベット料理屋でラム酒と辛い料理を腹におさめる。東京は相変わらずの暑さの真っ最中にあるようだ。

大キレットに行く



※ 「大キレット～北穂高岳」は「稲山通信第44号」に再掲載いたします。

(3) OB 会員の近況メール

(渡辺征二 OB(S42 卒) 2021. 04. 01 メール)

幹事の皆様、稲山会通信オンライン②を有難うございます。

皆さん、元気に登っておられて素晴らしいですね。当方は山とはご無沙汰ですが、思い出をくすぐられるようです。全く個人的な感想で恐縮です。

(1) 筑波山に関して

「筑波嶺の嶺より落つるみな川の、こひぞつもりて淵となりぬる」

百人一首にこの様に読まれた筑波山は私のフィールドでもあります。と申すのも、かつて現役生の活動が息絶え絶えになり、これを建て直そうと、都会での活動支援だけでなく、山にも同行しようと故井村 OB 他と活動を始めました。そんな訳で OB になって、現役生と登山するようになったのは50歳も半ばを過ぎてからだったので、自身の体力や体調の確認にことのほか注意し、その為に、この山を使っていました。

紹介されたのと同じコース（筑波山神社～御幸ヶ原～男体山往復～女体山～筑波山神社）を、麓の駐車場を起点にして、所要時間でその日の体調を計りながら登っていました。薄暗い早朝から、時には昼過ぎから、そして夕方から登り始めて薄暗くなって懐中電灯を点けて歩いた事もありました。途中の水場に表題の和歌があった様に思います。

一方で、地図に無いコースを探ったりもしました。例えばこのコースは女体山に突き上げる尾根沿いに登り、途中からトラバースしてケーブルのトンネルの上を跨ぐようにして、隣の尾根との中間に登り、男体山と女体山の間の御幸平に着くのです。このコースの不自然さが気になって、ケーブルのトンネルを跨ぐのではなく、尾根を直登する道があるはずだと、「感」で見定めて藪をこいで行くと、案の定、藪の中に廃道が見つかり、次からは鎌を持参で藪を刈り、自分だけの道を復活し、誰とも会うことの無い空間と時間、そして一寸変わった方角からの景色を占有して、悦に入った事も覚えています。つまりかつては神社からこの尾根伝いに直接女体山に突き上げる道があった様です。

勿論、これ以外のコースも沢山あり、結構静かな山が楽しめます。そして、今頃はカタクリの群落が可憐な花を見せてくれるでしょう。そんなこんなで、何十回と登った事やら。木々や岩のあれこれが記憶にあります。

縄文の時代から親しまれてきた筑波山には多くの人の歴史と文化が刻まれています。

参考文献「神々の山 筑波山と万葉集」石井郁子 臥雲山荘文庫刊

(2) 蓼科山の現役生の記録も良かったです。若さを貰った気がします。

敬 具

(森田生次 OB(S47 卒) 2021. 07. 19 メール)

会報誌の知らせをわざわざありがとうございます。

精力的な広報活動の素晴らしいこと、誠に恐れ入ります。本当にご苦勞様です。

コロナ不況に負けず此方の九つ井の渋谷社長も健在で、私も痛風だ、頭の動脈瘤の手術などからの立ち直りをして何とか復帰して細々と続けてやっておりますが、大大先輩の広瀬様の事を読ませて頂き、我々の山の会とは大物がまだまだ山のようにいらしゃる大変な部であったのだと知らされ、早稲田大学の山の会に偶然に入って過ごすこと出来たという事が如何に凄いことであったのだと、身震いを感じるような幸せな気分になり、良い青春を過ごしていただいたのだなー、と本当に感じさせられました。

現役の方の懐かしい場所の山行紀は、現在の山の会のあの懐かしい在り方を見ることができ、楽しく読ませていただきました。

豊田君などの活動記は、注目する花の写真が素晴らしく、自然を楽しんでおられながら、過ごしていただけるのは羨ましい限りです。未だに幸いに毎日の働きバチから抜け出せない状況からこの会報で色々な事を貰い、ホッとした気持ちにさせられます。行方さん本当にご苦勞様ですが、広瀬様の全文の方は是非よろしくお願いたします。色々と本当にご苦勞様ですが、頑張ってください。

多分 1968 年 後方に爺ヶ岳

2020 年夏ベイサイドにて 娘とクルージン

新井さん 2 年生 小谷さん 3 年生 加納さん 3 年生 斉藤さん 3 年生
 豊田 1 年生 北岡 1 年生 森田 1 年生



(鈴木明人 OB(S40 卒) 2021. 07. 22 メール)

山の会通信拝見しました。ありがとう、
 現役も少しずつ活動を始めたようで喜んでおります。
 鈴木明人

(斉藤雄二 OB(S41 卒) 2021. 07. 21 メール)

「ON-LINE 通信」凄いですね。私より 10 年若い世代でないと出来ないことです。
 私の時代は島田さんの尽力で、「稲山会通信」をカラー化したことですが、当時としては「稲山会通信」のイメージもだいぶ変わったなという自負はありました。

これだけの「ON-LINE 通信」が出来ると、「稲山会通信」はいらなくなるかもしれませんが、年配の OB・OG さんの中には、「稲山会通信」を待っていてくれる方々もいますので、継続はお願い致します。

車の運転は問題ないので、川越から遠くない沼田に家内と時々行き、日帰り温泉を楽しみます。先日は迦葉山に行き、弥勒寺に参拝してきました。山奥にある曹洞宗の立派なお寺で、天狗の御面で有名です。

大 腿骨は順調に回復していますが、人工骨頭が入っていますので、杖なしで歩くと、ギクシャクする感じです。ほとんど毎日ジムに行き、主にプールで歩行訓練をしています。今やこれが生きがいです。

ではまた。オリンピック成功すると良いですね。影の応援団です。

斉藤雄二

弥勒寺の天狗と斉藤雄二 OB



(新井昭夫 OB(S46 卒) 2021. 07. 19 メール)

広瀬さんのインタビュー記事、大いに興味が 있습니다。

「治癒される側から見たピンコロ人生 慕進健康管理法」の1回め, 2回め分を読返しましたが、お見事です。山に、仕事(ご自分の事業)に存分のご活躍。78歳にして、乗馬に挑戦して野を駆け回る。凄い先輩です。昔、大分から電話を頂いたことがあります。山の会の大先輩、立派な方々が沢山おられますね。頑張りましょう。

新井昭夫

(三宅辰幸 OB(S52 卒) メール 2021. 07. 04)

今年から日々の時間に「ゆとり」が取れるようになりましたので農業に時間を割いています。

そんな中で、行方さんからメールをいただき、改めて十代の終盤で、早大山の会での偶然の巡り合わせに感慨深いものを感じ幸福感に浸っています。あの頃に思いを馳せ、振り返ると谷川岳の新人合宿、鹿間さんとの絶妙コンビでの夏合宿以来、行方さんのリーダーとして人間としての「我慢」からいただいたご厚情を有り難く感じています。いつもの仲間と酒が飲める時が早く来ることを願うばかりです。

三宅辰幸



4. 早大山の会(現役学生)の近況

(1) 早大山の会の新幹事長に海崎真穂(山の会3年)さん

7月27日メール お世話になっております。山の会 海崎真穂です。この度会計と幹事長交代致しまして、幹事長になりました。

ご報告遅くなり申し訳ございません。引き続きよろしくお願いします。OBの皆様の知識や経験を少しでもご教授いただけますと幸いです。

お手数ですが、よろしくお願いします。

早稲田大学山の会 幹事長 海崎真穂



【参考】2021年の山行記録

- ①1月24日 倉岳山
- ②2月2~3日 大菩薩嶺
- ③3月6日 蓼科山
- ④3月28日 高尾山
- ⑤4月18日 関八州見張台
- ⑥4月24日 塔ノ岳
- ⑦5月4日 谷川岳(天神尾根)
- ⑧6月12日 両神山(八丁峠)
- ⑨6月12日 瑞牆山・金峰山
- ⑩6月26~28日 北岳
- ⑪7月18日 八ヶ岳(赤岳県界尾根)

- ⑫8月20~21日 槍ヶ岳(槍沢)
- ⑬8月29日 八ヶ岳(赤岳)
- ⑭9月6~7日 唐松岳~五竜岳(単独行)
- ⑮9月9~13日 北アルプス表銀座(単独行)
- ⑯9月11日 棒ノ折岳
- ⑰9月14日 伊豆ヶ岳

山行記録等は次のホームページ等でご覧になれます。

- ※ ホームページ : www.waseda-wms.net
- ※ ツイッター : [@yamanokaiwas](https://twitter.com/yamanokaiwas)
- ※ インスタグラム : [@soudaiyamanokai](https://www.instagram.com/soudaiyamanokai)

(2) 佐藤志龍くん(2年)の登山報告【八ヶ岳赤岳 2021.08.29】

●日 程：2021年 8月 29日 (日)

●メンバー：海崎真穂(3年)、櫛舎裕太(2年)、佐藤志龍(2年)、羽田航平(1年)

①登山行程

計画時間	実際時間	活動内容	感想など
1日目 8月29日(日) 日の出：5:11			
5:30	5:20	集合：赤岳山荘駐車場	結構混んでる、早めに着いてよかった
6:00	5:40	赤岳山荘	登山する人幅広いと感じた
8:20	7:17	行者小屋	赤岳を一望、ここでキャンプしたいな
10:10	8:39	赤岳	ここまでの階段が地獄、でも絶景
10:50	8:58	赤岳頂上山荘	雲海みたい、でも晴れててよかった
11:15	10:01	赤岳展望山荘	少し休憩、みんなもうビンビンしてる
11:20	10:11	地蔵の頭	逆ルートだとしんどかったなと感じる
12:10	10:47	行者小屋	ここでお昼ごはん、カレーメシ
14:00	12:26	赤岳山荘	ずっとトレランしてた
14:15	12:45	解散：赤岳山荘駐車場	渋滞も考え早めに帰宅
移動距離約 11.1km, 獲得標高：上り 1274m, 下り 1274m, コースタイム 8 時間			

②写真・感想

行者小屋から赤岳山頂までの階段、ここが今回の山場だが、なぜか笑顔で行く先輩でも景色がきれいすぎて、モチベ UP



行者小屋から赤岳山荘までにある小川で一休み、川の水がちょうどいい冷たさ。声をそろえて「あ～～。」



赤岳山頂にて、左から海崎(3年)、櫛舎(2年)、佐藤(2年)、羽山(1年) 山頂ではみんな疲労度0%, 山頂マジック!!



赤岳から見た阿弥陀岳、山って地図で見ただけでは大きさがわかりづらいなと感じた。当初ルートはここも登頂するであった…



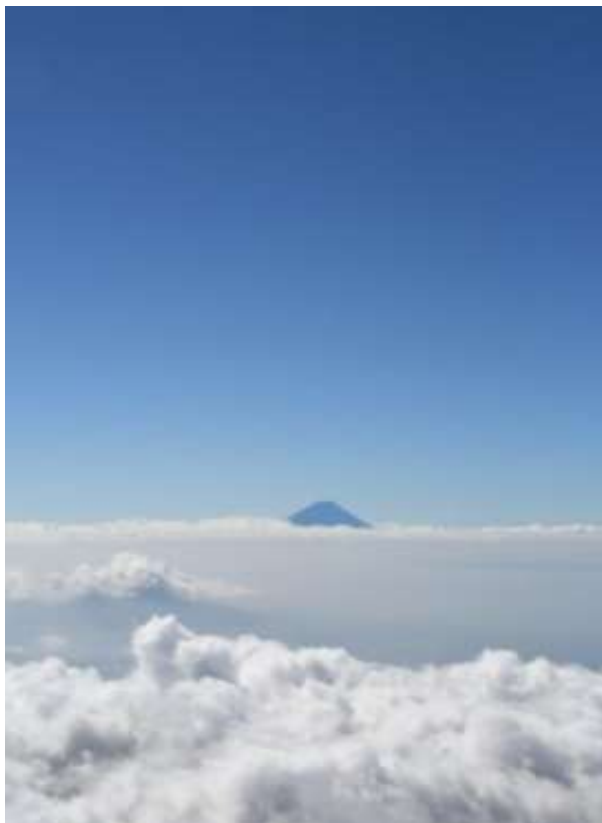
櫛舎君たちが少し前に行った槍ヶ岳も見えた。
写真だとよくわからない。



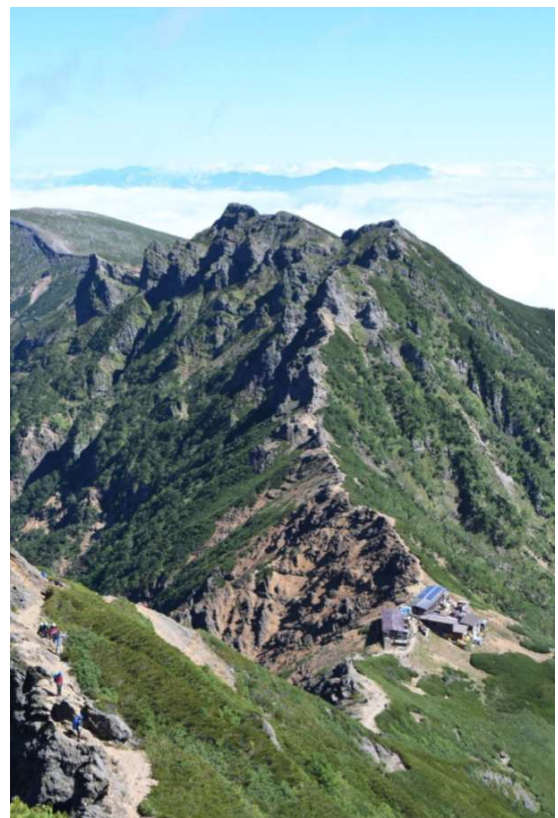
こちらは赤岳からの南側(権現岳と南アルプス)



富士山



赤岳から見た赤岳展望山荘 逆ルートは急斜面かつ砂利道であり、さらに登りづらそう。降りるのも一苦勞。同じ山でもルートの選定は非常に大切だと学ぶ。ハヶ岳縦走は春休みか来年の夏の目標とする。



- ③まとめ ・行動計画はメンバーの体力を見つつ無駄に余裕を取りすぎる必要もない。
- ・車で行く場合は目的地近くの SA・PA で前泊すると深夜割引を有効に使えて効率的
 - ・日帰りの軽装備は景色を楽しむ余裕もあり非常に楽、しかしやっぱり日の出が見たい。
 - ・赤岳鉱泉に温泉に入りに行くだけの山行を秋に計画するのもありではないかとなった。行者小屋で一泊するなど。

(3) 佐山明嶺さん(3年)登山報告【唐松岳～五竜岳(単独)2021.09.6】

●日程：2021年9月6日～9月7日

●メンバー：佐山明嶺(3年・単独)

●行程：【0日目】…夜行バスで唐松岳麓まで行く 【1日目】…ゴンドラで標高1800m地点へ、唐松山荘でテント泊 【2日目】…五竜岳登頂、下山、高速バスで帰宅

【0日目】 深夜 23:05、新宿発の夜行バスに乗って白馬村の方へ向かう予定だった。山の会4年の加治屋(萌ちゃん)と2人で縦走する予定だったが、萌ちゃんがバスに乗り遅れてそのまま出発してしまった。萌ちゃんは新宿まで来ていたがバスタ新宿と逆方向に走っていたそうで間に合わず。私はバス出発の数分前から、1人になっても行こうと決意したが、バスが出発するとやはり悲しくなり少し泣いた。不安と悲しみと、バスの中で寝心地が悪いのもあって全く寝られなかった。

【1日目】 朝 5:30、白馬八方に到着。私以外にはカップルのような2人組と同年代の女の子2人組しかおらず、天候が快晴ではない分、人も少ないようだった。ゴンドラの出発が8時だったので、ゴンドラの前で待っていたところ、先ほどの女の子2人組がいたので声をかけてみた。少し話していると私と同じコースを辿る予定で、なんと早稲田大学の登歩の会の個人山行だった。お話できて少し寂しさがなくなった。ゴンドラで標高1800m地点へ到着し、先ほどの2人組は唐松山荘でテント泊、私は当初の予定では五竜山荘でテント泊する予定だったので、私の方が予定コースタイムが早く、先に出発することにした。途中晴れ間が見えたり、ガスったりと、色々な景色が楽しめた。日本の色々な山脈の中でも北アルプスは少し特別な感じがする。11時頃から雨が本格化し始め、レインウェアとザックカバーをした。実は本格的な雨に降られるのは初めての経験で、いつも雨具は持っていたものの使ったのは初めてだった。装備の重要性を実感した。ただレインウェアは部屋にあった古いものを借りていったので、少し雨が滲んできて、風も強かった のでなかなか寒かった。自分用のレインウェアを買いたいなあと思いながら、唐松山荘 に到着した。ここで、先ほどの早稲田大学登歩の会の2人組に会う。私は雨であることと明日の天気予報が良いことから、唐松山荘でテント泊することに決定した。早稲田大学の2人組は4年生の福岡さんと3年生の高橋さんという方たちだった。テントを隣に張らせてもらい、その後、唐松登頂にもお供させてもらう。この時点で私の単独山行は半単独山行となった。2人とも登山は高校生からやっており経験値も高かった。山の話ができて楽しかった。そして、明日一緒に行ってもいいかという図々しいお願いを受け入れてくれた。その後テントに戻った時、雨風がさらに強く降り始め、五竜 岳行かなくてよかったなあと思底思った。銀マットがなく、冷え症と不安とで夜は眠れ なかった。朝起きたら昨日見られなかった山の景色が広がっており、星も綺麗だった。

【2日目】 朝4時に起き(寝てないけど)、5時頃出発した。唐松岳から五竜岳に向かう最初の30分の行程は岩場であり、難易度は高くないものの高度感がありなかなか怖かった。五竜岳までは福岡さんと高橋さんと一緒だったので、1人じゃなくて本当によかったなあと思う。日の出が綺麗だったり写真を撮ってもらったり、見たものや感じたものを誰かと共有できることは幸せなことだと身をもって実感する。私は今回の山行で軽量化を意識しており、唐松岳から五竜岳までの2時間半の行程で水を500mlのみしか持ってい かず、喉がカラカラになった。軽量化はとても大事であるが、食料や飲料の無駄をどの程度削るかの判断も大事であった。五竜岳山荘から五竜岳まではザックを置いてピストン、時間は往復で2時間弱であった。運よく快晴であり、剣岳から少し遠くに槍ヶ岳まで見えた。五竜岳山荘に再び戻ると2日間の寝不足があつてか疲労感があり、福岡さんと高橋さんに迷惑をかけるわけにもいかないので、1人でゆっくり下山することにした。正直、疲労感がすごく充実感や景色を楽しむ余裕は全くなかった。この時が人生で初めて自分の体力の限界を感じた瞬間だったと思う。体力なんて根性でどうにかなると思 っていたが、若くてもどうにかなるものではないらしい。のんびり下山した後、バスター ミナルまで徒歩26分であったが、バスの出発まで20分しかなく、猛ダッシュした。足の痛さや疲れより高速バス代の5000円を無駄にしたくない思いが勝り、ひたすらに走ったら間に合った。バス停で福岡さんと高橋さんと再会した。帰りのバスの乗客は新宿まで、福岡さんと高橋さんと私の3人だけだったので、ひたすらにゆっくりした。

【最後に】 今回の山行は初めての経験が多く、なかなか楽しい山行であったと思う。この後、萌ちゃんと2人で行くはずだった燕岳～上高地の縦走に萌ちゃん単独で行き、なんで私たちはこんなに単独山行をしているのかと不思議に思った。萌ちゃんが山に行っている間、私が在京連絡人をやったのだが、単独山行の在京連絡人がこんなにも不安になるのかと実感した。なぜか萌ちゃんとの今までの思い出を振り返っていた。上高地から帰ってくる時、バスタ新宿まで迎えに行った。後藤さんに言われた通り、「おかえりモエ」をし、常数さんに言われた通り、オレンジジュースをおごってあげた。天候に恵まれ、偶々同年代の同大学の登山者に会えたこと、OBの方々のメールで本当に助けられたこと、在京連絡人小田と萌ちゃんが頻繁に連絡をくれたこと等、運と周りの人の好さに感謝溢れる山行であった。しかし、次は複数人で山に行きたいと強く思う。



2日目の出発前、福岡さんと佐山



朝日



五竜岳へ向かう稜線



五竜岳登頂、雲海が綺麗



五竜岳と本当にお世話になった福岡さん・高橋さん

(4) 齋藤壮呉君(4年)登山報告【棒ノ折山 2021.09.11】

- 日 程：2021年9月11日(土)
- メンバー：齋藤(4年) 羽山・藤原・手塚(1年) 天候) 小雨→曇り
- コースタイム：0946 さわらびの湯バス停 - 1010 白谷沢登山地 - 1050 林道との交差点のベンチ - 1130 棒の折山 - 1250 さわらびの湯

当初は僕のほか、2年生2名、1年生7名の予定だったが、体調不良や雨の予報を危惧して不参加とした学生が多く、以上の4名での山行となった。全員が飯能駅で集合した。事前にLINEで、僕はオレンジ色のシャツを着ていると共有していたが、僕がついた時にはすでに同じバス停にオレンジ色のシャツを着た人が二人も並んでいた。曇天のせいか、乗客はさほど多くなく空席もあった。さわらびの湯で下りた登山者も我々のほかに4名程。登山口付近で小雨がぱらつき始めたが、それ以上強くなることはなく、山に入れば木が雨をよけてくれるので、気にならない程度だった。男4人で軽快に歩みを進め、渡渉、へつりなども難なく通過。多くはないが登山者はおり、階段、フィックスのあたりではすこし順番待ち。ハイキング程度と高を括っていたが、この辺りは、登山経験のない女の子などを連れていく場合にはスリングの一本くらいはあってもよかったかもしれないと思った。沢沿いから離れてから山頂まで意外と長かった印象。なんとなく終わったような気がしてしまったらしい。山頂手前に長い階段があったが、壊れている箇所があるらしく、使用禁止となっており、階段の左右に踏みあとができていた。沢が終わったくらいから周りが白み始め、山頂でも真っ白だった。山頂で15分ほど休憩。真っ白ではあったが、雲は太陽の場所がわかるほどには明るく、時折青空も見えた。下りは湿った木の根っこに気を付けながらも、緩やかな斜面をスピーディーに下り、水分の補給以外にまとまった休憩は挟まずに1時間程度で下山した。ゆっくりお湯につかり、昼でのんびりした後帰宅。遅くない速さで歩いたが、高校時代3人とも運動部だったとのことで体力は十分にあり、遅れることなくぴたりついてきてくれていた。3時間ほどで終わってしまったため、すこし物足りない様子でさえあった。また近いうちにあえるといいね。

本山行は計画を会長に共有し、合宿・遠征届を学生生活課に提出した。学生生活課へのサークル活動を行っているというアピールと、ケガ等があった場合に大学からの傷害補償(学生補償制度)を受けるために、なるべく提出するようにしたい。また、保護者への計画の共有を徹底するために、参加者に計画書をしっかり読んでもらうためにも、参加同意書の提出は多くの学生を連れていく場合には有用であると思う。

へつりぎみ



左から、齋藤、手塚、羽山、藤原



(5) 櫛舎祐太君(2年)登山報告【伊豆ヶ岳 2021.09.14】

●日 程：2021年9月14日(火)

●メンバー：櫛舎(2年)、佐藤(2年)、他8人(1年)

昨日(9月14日)は無事下山できました。天気は曇り時々雨のような状態でしたが、レインを出すほどでもなかったです。鎖場では僕と佐藤で様子を見ながらゆっくり登り、無事通過することができました。迂回組も特に問題はなく、無事山頂で合流できました。下に頂上での集合写真を添付します(櫛舎撮影)。

昨日はとても楽しい山行で、新入生とも同輩とも親睦を深められよかったです。

